



楓 心

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

○○●○○

【Nコード】

N9164Y

【作者名】

楓心

【あらすじ】

新配信

F a c i a l s o u l

クリアデータ。

クリア者に破格の賞金

3,000万円。

謎のゲーム攻略に

チャレンジ。

その裏側には…

日常
×
非日常

目覚ましが鳴り響く。

その中で無造作に起き上がり粗々しくも携帯を手に取りアラームを切る。

綺麗な赤に染まつた髪も

寝起きで、至る所に変な癖がついている。

そんなことは気にも留めずに
スウェットを脱ぎ捨て制服に袖を通す。

狭い1Rから出るそうに行く。

そう……いつもと変わらない一日が始まるのだ。

[illegible]

通いなれた通学路。

後ろから声をかけられる。

「おはようー」

同じクラスの【はじめ】だ。

「おはよ……」

まだ頭が働かない。

「かずま、いつも眠そうだな!」

かずま…俺の名前だ。

17歳の高校生。

1Rに一人暮らし。

親は? って…

一応いる。けど俺には興味がないみたい。
お互い不倫相手と同棲中で、俺は邪魔者。
金だけ出してくれているのは
せめてもの救いだ。

その邪魔者がはじき出されて一人暮らしってわけ。

んで一応、高校にも通ってる。

このはじめて奴が学校に行かないと
家に来て面倒だから。

一応心配してくれてるらしいが、男友達って
口には出さないだろ?

まあ、居心地がいいからつるんでる。

「かずま知ってる?」

「何?」

「昨日、ネットで見つけたんだけど…」

プリントアウトした記事を見せた。

http://○○○○○○○

来年1月1日配信

インターネットゲーム

「ファシアル Fatal ソウル Soul」

新感覚アクションゲーム

今、流行のアクションゲーム発売の記事。

だが2枚目の記事を見て驚愕した。

http://○○○

新配信のFacial Soulをクリアした者。
また、クリアデータに3,000万円出します。

下記にご連絡ください。

連絡先 090-0000-0000

（なんだ、桁を間違えているんじゃないか？）

「はじめ…なんだこの金額…」

「な…謎だろ？でも…ちよつと興味があんだよな。」

確かに俺も興味はある。

しかも配信日が先週だ。

って言うても

正月に新配信するゲームって

なんかおかしくないか？

とは思ったが、とどめといた。
はじめの目が輝いていたから。

そして…

「放課後かずまの（俺の）家集合な！」

そう約束して学校に入った。

日常×非日常-2

いつも通りの退屈な授業。

難なくこなし、昼休み。

自分の携帯でもF a c i a l s o u l
を検索してみた。

F a c i a l s o u l

制作元：不明

配信元：C L O V E R

価格：フリーソフト

内容：現在調査中

謎の多いゲームだ。

配信間もないソフトなので
内容が調査中なのは納得する。

しかし、製作元不明で
配信元がCLOVER？
個人のアカウントだ。

しかもフリーソフト…

ゲーム会社の試作品か？
それとも盗作？
はたまた個人の趣味？

なんにせよ無料とはうれしいもんだ。

なんだって…学生には金がない。

とりあえずは放課後を楽しみに待つことにした。

- - - - -
- - - - -
- - - - -

「おつかれえ」

「おつかれさん」

細身で切れ目なイケメンの【かい】
が話しかけてきた。

「今日、はじめが面白そうなゲーム見つけてきたから集まるけど、
かいも来る？」

「まち？なんつーゲーム？」

「facial soul」

一瞬間があつて…

「ああ…俺それパス！またなつかあつたら誘つてな」

なんか違和感を感じたがそれほどに気にしていなかった。

家に着くとすぐにはじめも到着。

「よし…もうネットは起動してある。TVに映像を出すからとりあえず

はじめがやってみるか？」

「いや、俺もノート持つてきてるからWi-Fiで接続できつから二人ともアカウント作つてはじめれるぞ。」

話が早い。

PCを起動。

ソフトをインストールしている時に
玄関チャイムが鳴った。

（誰だ？家に人が来るなんて珍しいな…）

「はい」

ガチャ…

「かずま様に、はじめ様ですね？」

「ああ」

「こちらをお届けです。」

小包が2つ。

それぞれに名前が書かれている。

送信者：COVER

どういふことかそれなりの仮説を立てるが
どれも曖昧だ。

受け取って相手を見る…が
もう姿がない。

明らかにヤバイ

「はじめ…!!」

振り向きざまに顔が青ざめている。

PC画面を覗き込むとそこには…

アカウントログイン

はじめ

…自動で登録が終わっている。

とりあえず届いた

小包を開けてみると

小さなUSBカード

…とその先に何かの受信部？のような
球がついているものが入っていた。

それと…俺のには赤いビー玉のような物体。

初めには黄色いビー玉のような物体が
それぞれ入っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9164y/>

○ ● ○

2011年11月27日15時47分発行